

観察会報告

丹那断層と月光天文台

鈴木健太



丹那断層公園の丹那盆地模型を見る参加者

2019年の12月8日に丹那断層の巡検と月光天文台の見学が行われました。参加者は案内者を含めて9名で、4台の車で移動しました。

丹那断層とは1930年11月26日に起こった北伊豆地震によってできた横ずれ断層で、箱根山南麓から函南町の丹那盆地を通っています。今回の観察会では、北伊豆地震によってできた丹那断層の被害と断層の様子が明瞭に観察できる丹那断層公園と火雷神社の2地点を周りました。

丹那断層公園では、断層のずれが保存されています。左横ずれ断層の活動により、当時の水路が断層に沿って2m程度ずれてしまっている様子がよくわかります。また、地層のずれを観察できる地下施設があり、断層を断面として見ることができ、断層の動きを実感することができるらしいのですが、断面の地質のどのようなものを以て断層とするのかの説明がなく、破碎帯があるわけでもなかったため、地下をみせることで何を見せたいのかが分かりづらい印象を受けました。

案内者の柴さんの説明では、丹那断層は丹那盆地の北では西落ち、南では東落ちの断層でそれぞれが異なった断層で、本来1本につながった断層ではないとのことでした。

火雷神社は丹那盆地の北に位置する田代盆地の中にあり、そこでは石造りの鳥居とその



月光天文台 地質系の展示フロア

先の石段が、ちょうど断層の境目に位置していたため、断層が横ずれしたことで鳥居と石段の乗った地面が横に移動し、鳥居に向かって左側の僅かな部分を残し、ほとんどが石段から離れていました。神社には地震後に新しい石段が作られ、倒れた鳥居や石段などの過去の地震の痕跡が現在も保存されていました。

近年ジオパークに認定された伊豆は、プレートの移動による日本列島の形成や火山群、日本ではないかのような自然をアピールし観光産業として盛り上げています。そのため美しい景観や物珍しい景観に注目されがちですが、ジオパーク制定の本来の目的である「自然と私たちの暮らしとのつながりを見つめなおす」ために、地震などの自然災害と私達の関わり方を考え、地震の記憶を風化させない点で、最も重要な場所なのではないでしょうか。

丹那断層を見学した後、月光天文台を見学しました。月光天文台は天文関係の展示だけではなく、物理や化学、地質関係の展示も多くありました。地質系の展示フロアでは、白浜層群などの伊豆地域に広がる地層の化石の標本が数多く展示されていて、普段は見ることができないのでとても勉強になりました。